

編集後記

京都女子大学栄養クリニックの今年度の活動を振り返りますと、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、対面・飲食を伴う事業は制限せざるを得ませんでした。できる範囲で取り組みました。お陰さまで、活動報告書第14号（2021年度）を発行出来ますこと、関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

まず、今年度は、公開講座（隔年開催）を開催しました。オンライン開催ということもあり、遠方からも多くの方に参加いただきました。講師の方とも綿密な打ち合わせ等を行い、トラブルなしに終了できましたことは、今後のウィズコロナ時代の公開講座のあり方を示したものと思います。

大学地域連携事業や大学祭の栄養アセスメント体験・栄養相談、学園内の食育（附属小学校、大学学生）等の各事業も1年ぶりで再開できました。人数制限、時間短縮などにより、参加者の方、スタッフの安全を第一にコロナ対策を講じながらも、何とか実施することができ、また、参加いただいた方々からも、満足度の高い評価を得ることができました。学生支援の料理教室は定員を半分に2回開催し、ミニ講義と調理実習を行いました。学生に好評でした。特定保健指導においては、感染症予防対策を万全にして対面で行い、オーダーメイドの指導により満足度の高い成果を出しております。

当クリニックの事業の特徴は、教育の一環として学生がボランティアに参加し、幅広い活動をしている点でもあります。様々な制約のある中で、対面を必要とするボランティアも可能な限り活動できるように、コロナ予防対策を万全に再開しました。また、昨年度学長採択事業「らしつよチャレンジ」で結成したKWU食育ボランティア推進プロジェクトは、栄養クリニックを拠点としてスタートするなど、一定の成果を上げることができたように思います。

また、研究活動は、昨年度全くできなかったことから、今年度学会発表はできませんでしたが、従来取り組んできた成果を査読付き論文として投稿し、受理いただきました。

R研究棟に移転してからも10年が経過し、来年度は栄養クリニック設立15周年を迎えます。新型コロナウイルス感染症はまだまだ予断を許さない状況ですが、ウィズコロナ時代の地域に根ざした大学の附置研究所として、社会貢献活動、教育活動、研究活動など、様々な課題を一つずつ解決しながら、活動内容の継続・拡大、充実を図って参りたいと思います。

今後とも引き続き、ご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

副栄養クリニック長 中山玲子

編集委員会	令和4年3月31日発行
編集委員長 宮脇 尚志	発行 京都女子大学栄養クリニック
編集委員	編集責任者 宮脇 尚志
中山 玲子	住所 〒605-8501
中村 智子	京都市東山区今熊野北日吉町35
	TEL 075-531-2136
	FAX 075-531-2153
事務担当 松並 晃子	URL https://www.kyoto-wu.ac.jp/shakai/eiyouclinic/index.html